

第10章 参考資料

1 用語の説明（文章中の右肩に「※」が付されている用語）

【あ行】

- **アセットマネジメント**

改築更新計画を定め、経営の持続性を担保する資産管理手法。

- **オゾン処理**

浄水処理の過程でオゾンを接触させることで、オゾンの酸化力により、細菌やウイルスの不活化、色度の除去、異臭味の除去、有機物の酸化分解、凝集促進効果などが期待できる浄水処理方法の一つ。

- **汚濁負荷量**

下水などの水の汚れ具合。水量と汚濁物の濃度とを乗じて求めた汚濁量をいう。

【か行】

- **管更生**

修繕等が必要な管路の内部に新たな管を構築する工法で、掘削し布設替することなく施工を行う。

- **急速ろ過方式**

薬品を加え、原水の濁りを凝集させ沈殿処理したのち、砂を敷いたろ過池でろ過し、更に塩素消毒する方式のこと。

- **きょう雑物**

下水に含まれる水に溶けないゴミなどのこと。

- **業務継続計画（BCP）**

災害発生時など、人材や資材に制約がある状況下でも、適切に業務を進めるために備えておく計画。

- **緊急時連絡管**

事故や災害等により断水が発生した場合に、隣接する都市間で水道水を相互融通することを目的とした配水管（平常時の使用は想定していない）。当市では、2017（平成29）年度に札幌市との緊急時連絡管を整備した。

- **緊急遮断弁**

地震や管路の破損などの異常を検知すると自動的に管路を遮断し、配水池に蓄えられている飲料水が確保されるよう機能する弁。

- **緊急貯水槽**

災害発生時の飲料水を確保、供給するための施設で、平常時は配水管路の一部として機能し、地震等の非常時には飲料用として貯留水を利用できる水槽。

- **減価償却費**

固定資産の使用に伴う価値の減少額を特定の年度の費用としたもの。

- **広域化**

複数の市町村などが浄水処理・下水処理地域の統合や処理過程で発生する汚泥の共同処理、維持管理業務の共同化などで運営を効率化すること。

【さ行】

- **残留塩素**

水道水や下水に塩素を注入したとき、水の中に残っている塩素のこと。

- **資本的収支**

施設や設備の整備拡充・更新を行うための収入及び支出。

- **収益的収支**

企業の経常的な経営活動に伴い発生する収入及び支出。

- **重要な幹線等（その他の管路）**

ポンプ場・処理場に直結する幹線管路、相当広範囲の排水区を受け持つ吐口に直結する幹線管路、被災時に重大な交通機能への障害を及ぼすおそれのある緊急輸送等に埋設されている管路などをいう。重要な幹線等以外の管路をその他の管路という。

- **障がい者優先調達推進法**

障害者就労施設で就労する障害者や在宅で就業する障害者の経済面の自立を進めるため、国や地方公共団体、独立行政法人などの公機関が、物品やサービスを調達する際、障害者就労施設等から優先的・積極的に購入することを推進するために制定された法律。

- **消化ガスコージェネレーション**

下水を処理する工程で発生するガスを利用して発電を行い、その排ガスの熱も利用し暖房などにも利用するシステム。当市ではエネルギーを効率よく利用するために導入している。

- **ストックマネジメント**

施設の構造や機能の劣化状況に応じた機能保全対策の実施を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するための技術体系及び管理手法の総称をいう。

【た行】

- **地方公営企業法**

地方公共団体の経営する企業の組織・財務・職員の身分について定めた法律。

- **逡減（ていげん）**

だんだん減ること。

- **天日乾燥床**

浄水場で発生した汚泥を自然の力（太陽熱や風）を利用して、水分量を少なくするための施設。

【な行】

- **内部留保資金**

減価償却費など現金の支出を伴わない費用や収益的収支における利益によって企業内に留保される資金のことで、主に施設の更新や借金の返済などの財源として使われる。

- **2回線受電方式**

異なる変電所から2回線で受電し、どちらか一方の回線が停電となっても、もう一方の回線に切替わる受電方式のこと。

【は行】

- **P D C Aサイクル**

計画（Plan）、実施（Do）、検証（Check）、改善（Action）のプロセスの繰り返しにより、継続的改善を推進する経営管理の手法。

- **法定耐用年数**

造物（建築）や設備（機械・電気）などといった減価償却資産の法定上の使用可能な見積期間のこと。

【ま行】

- **膜処理**

微細な穴を持つ膜を利用して水を通して不純物を取り除き処理すること。

【や行】

- **有収水量**

水道料金収入及び下水道使用料収入の対象となる水量。

【ら行】

- **ライフサイクルコスト**

ある施設における初期建設コストと、その後の維持管理更新費用等を含めた生涯費用の総計。

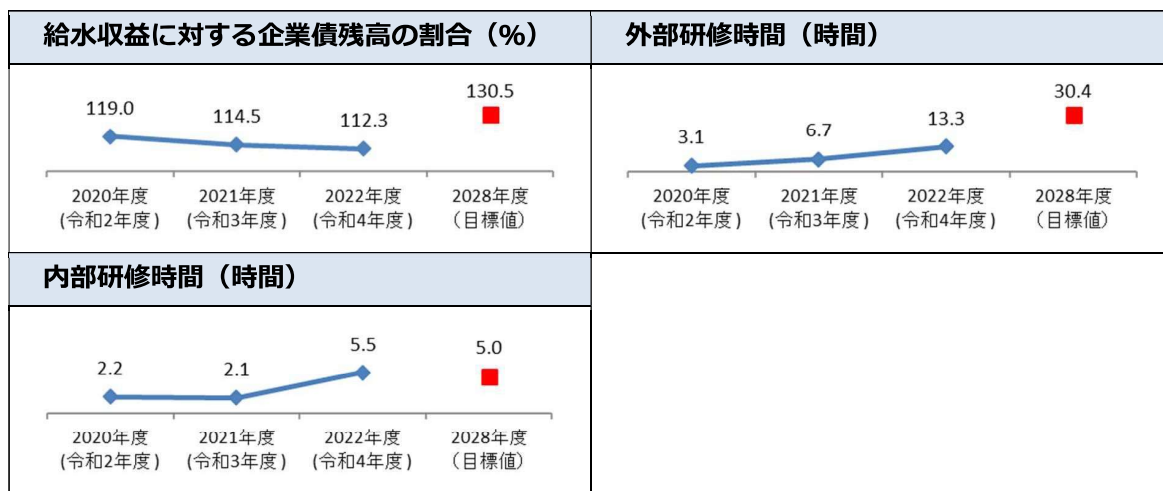
- **緑農地利用**

下水をきれいにした際に発生する汚泥を、畑などの肥料として使用すること。

2 業務指標の推移と目標値

水道

有機物（TOC）濃度水質基準比率（％）	農薬濃度水質管理目標比
2020年度 (令和2年度) 23.9 2021年度 (令和3年度) 20.6 2022年度 (令和4年度) 19.4 2028年度 (目標値) 25.0	2020年度 (令和2年度) 0.000 2021年度 (令和3年度) 0.000 2022年度 (令和4年度) 0.000 2028年度 (目標値) 0.000
配水池清掃実施率（％）	水源の水質事故件数（件）
2020年度 (令和2年度) 100.0 2021年度 (令和3年度) 100.0 2022年度 (令和4年度) 100.0 2028年度 (目標値) 100.0	2020年度 (令和2年度) 0 2021年度 (令和3年度) 0 2022年度 (令和4年度) 0 2028年度 (目標値) 0
災害対策訓練実施回数（回／年）	配水池の耐震化率（％）
2020年度 (令和2年度) 3 2021年度 (令和3年度) 3 2022年度 (令和4年度) 3 2028年度 (目標値) 6	2020年度 (令和2年度) 12.4 2021年度 (令和3年度) 9.8 2022年度 (令和4年度) 9.8 2028年度 (目標値) 18.7
基幹管路の耐震管率（％）	基幹管路の耐震適合率（％）
2020年度 (令和2年度) 21.4 2021年度 (令和3年度) 23.4 2022年度 (令和4年度) 24.9 2028年度 (目標値) 37.7	2020年度 (令和2年度) 21.4 2021年度 (令和3年度) 23.4 2022年度 (令和4年度) 24.9 2028年度 (目標値) 32.3
基幹管路の事故割合（件／100 km）	有収率（％）
2020年度 (令和2年度) 3.7 2021年度 (令和3年度) 0.0 2022年度 (令和4年度) 5.3 2028年度 (目標値) 0.0	2020年度 (令和2年度) 95.4 2021年度 (令和3年度) 95.3 2022年度 (令和4年度) 94.9 2028年度 (目標値) 95.0
設備点検実施率（％）	配水量1 m ³ 当たり電力消費量（kwh/m ³ ）
2020年度 (令和2年度) 100.0 2021年度 (令和3年度) 100.0 2022年度 (令和4年度) 100.0 2028年度 (目標値) 101.7	2020年度 (令和2年度) 0.17 2021年度 (令和3年度) 0.17 2022年度 (令和4年度) 0.17 2028年度 (目標値) 0.18
浄水発生土の有効利用率（％）	経常収支比率（％）
2020年度 (令和2年度) 100.0 2021年度 (令和3年度) 100.0 2022年度 (令和4年度) 100.0 2028年度 (目標値) 100.0	2020年度 (令和2年度) 115.3 2021年度 (令和3年度) 115.3 2022年度 (令和4年度) 112.2 2028年度 (目標値) 100.1



下水道



3 前ビジョンの評価

(1) 水道

2009（平成 21）年度策定の「江別市水道ビジョン」で掲げた目標値（2018（平成 30）年度）の達成状況は、以下のとおりとなります。

【評価：◎現況値で目標値を達成している、○2018（平成 30）年度で目標値を達成する見込み、

△目標値を達成できない見込み】

基本方針：安全で信頼される水道				
項目名	策定当時 2009 年度 (平成 21 年度)	現況値 2017 年度 (平成 29 年度)	目標値 2018 年度 (平成 30 年度)	評価
漏水率（％） (年間漏水量/年間配水量) ×100	3.8	2.1	3.5	◎
	計画的な管路更新などにより、全国的にみても低く、良好な状態を維持しています。			
有収率（％） (年間有収水量/年間配水量) ×100	93.4	95.3	93.8	◎
	計画的な管路更新などにより漏水量が少なく、高い値を維持しています。			
配水池清掃実施率（％） [5 年間に清掃した配水池有効容量/（配水池有効容量/5）] ×100	500	497	500	○
	配水池の新設により、数値が下がりました。今後も 5 年に 1 度の各配水池清掃を継続します。			
ブロック化率（％） (ブロック化完成数/全ブロック数) ×100	98.6	100.0	100.0	◎
	市内全域のブロック化を完了しており、ブロック化のメリットを生かした管網管理を行っていきます。			
管路の耐震化率（％） (耐震管延長/管路延長) ×100	4.2	13.9	16.0	○
	管路の更新時に耐震管を使用して耐震化率の向上を図っていきます。			
配水池耐震施設率（％） (耐震対策の施された配水池有効容量/配水池有効容量) ×100	10.6	13.7	10.8	◎
	耐震診断により、耐震性能を有することが判明した施設があるため、率は向上していますが、まだ低く計画的な耐震化が必要です。			
基幹管路の事故割合（件/100 km） (基幹管路の事故件数/基幹管路延長) ×100	0.7	0.0	0.0	◎
	0 件を目指していますが毎年、数件発生しているため、迅速な復旧体制の確保に努めます。			
可搬ポリタンク・ポリパック保有率（個/1000 人） (可搬ポリパック・ポリパック数/給水人口) ×100	51.5	230.0	94.7	◎
	備蓄数は増加していますが、今後も適正数の確保に努めます。			
有機物（TOC）濃度水質基準比（％） (有機物最大濃度/有機物水質基準値) ×100	24	33	33	◎
	粉末活性炭の注入により低い値を維持しています。			
農薬濃度水質管理目標比（％） [(測定を実施した農薬ごとの最大濃度をそれぞれの水質管理目標値で除した値の合計値)/測定を実施した農薬数] ×100	0	0	0	◎
	適正な薬品注入などにより、今後も 0 %の継続に努めます。			
水源の水質事故数（件）	0	0	0	◎
	水質監視計器の設置などにより監視を強化し、ゼロを継続しています。			

基本方針：親しまれ、開かれた水道				
項目名	策定当時 2009 年度 (平成 21 年度)	現況値 2017 年度 (平成 29 年度)	目標値 2018 年度 (平成 30 年度)	評価
直結給水率 (%) (直結給水件数/給水件数) ×100	92.4	92.7	92.7	◎
	ブロック化による管網管理などにより、各区域において水圧の安定化を図り、直結給水、直結加圧給水を可能にしています。			
断水・濁水時間 (時間) (断水・濁水時間×断水・濁水区域給水人口)/給水人口	0.00	0.00	0.00	◎
	計画的な管路更新などにより、漏水等の事故を防止して低い値を維持しています。			
貯水槽水道指導率 (%) (貯水槽水道指導件数/貯水槽水道総数) ×100	2.8	35.1	46.0	△
	積極的な指導により、指標は大幅に上昇しました。			
浄水発生土の有効利用率 (%) (有効利用土量/浄水発生土量) ×100	100.0	100.0	100.0	◎
	融雪剤として全量を有効利用しています。			
建設副産物のリサイクル (%) (リサイクルされた建設副産物量/建設副産物排出量) ×100	99.8	99.9	99.9	◎
	工事で発生する建設副産物については、可能な限りリサイクルしており、今後も継続していきます。			
浄水場での電気使用量 (%) (浄水場年間電気使用量/H2O 浄水場年間電気使用量) ×100	100.0	82.9	95.0	◎
	運転制御の見直しや省エネ機器の導入により、電気使用量は減少しています。			

基本方針：豊かで、持続可能な水道

項目名	策定当時 2009年度 (平成21年度)	現況値 2017年度 (平成29年度)	目標値 2018年度 (平成30年度)	評価
営業収支比率(%) (営業収益/営業費用)×100	124.3	112.6	109.3	◎
	経費の節減に努めた結果、100%を上回り、目標値を達成しました。			
経常収支比率(%) (経常収益/経常費用)×100	115.0	115.4	112.1	◎
	100%を上回り、健全な経営状態を維持できているといえます。			
累積欠損金比率(%) [累積欠損金/(営業収益－受託工事収益)]×100	0.0	0.0	0.0	◎
	これまで欠損金の累積はなく、今後も0%であることが求められます。			
給水収益に対する企業債残高の割合(%) (企業債残高/給水収益)×100	237.5	132.3	107.9	△
	企業債の償還は進める一方で、給水収益は減少傾向にあるため、高い数値となっています。			
自己資本構成比率(%) [(資本金＋剰余金＋繰延収益)/負債・資本合計]×100	69.4	82.4	71.3	◎
	自己資本の割合は上昇傾向にあり、目標値を達成しています。企業債の残高を減らしながら、利益剰余金を減債積立金として自己資本に組み入れているためです。			
外部研修時間(時間) (職員が外部研修を受けた時間×人数)/全職員数	2.0	32.2	15.0	◎
	日本水道協会など外部団体主催の研修に積極的に参加し、技術や知識の習得を図っています。			
内部研修時間(時間) (職員が内部研修を受けた時間×人数)/全職員数	7.8	4.9	3.5	◎
	工事現場で研修を実施することにより、技術の継承を図っています。			
上下水道合同技術交流会(仮称)の実施回数(回/年)	1	2	2	◎
	幅広い知識習得のため、担当業務以外の分野についても研修を行っています。			
民間事業者との合同技術研究会の実施回数(回/年)	2	2	3	○
	民間事業者と連携し、相互の技術力向上を目指した研修を定期的に行っています。			

【前ビジョンの評価のまとめ(水道)】

計画的な老朽管の更新や配水区域ブロック化事業を進め、安定的な管網管理が実現したことにより、漏水率、有収率など良好な状態で推移しています。また、水安全計画を策定、運用することで、安全・安心な水道水の安定供給を実現しました。

災害対策では、緊急貯水槽の増設、緊急時連絡管の整備のほか、加圧給水タンク車の導入などにより、応急給水体制の充実を図っています。

事業の収益性、健全性を表す営業収支比率などの指標は、目標値に到達し、健全な事業運営を維持しています。

職員の育成については、外部・内部の研修など積極的に受講する機会を設け、技術力の維持に努めてきました。

(2) 下水道

2010（平成 22）年度策定の「江別市下水道ビジョン」で掲げた目標値（2018（平成 30）年度）に対する達成状況は以下のとおりとなります。

取組方針：未来へつなく下水道				
項目名	策定当時 2009 年度 (平成 21 年度)	現況値 2017 年度 (平成 29 年度)	目標値 2018 年度 (平成 30 年度)	評価
営業収支比率（％） (営業収益/営業費用) ×100	146.4	73.2	145.0	－
	2014（平成 26）年度の地方公営企業会計基準の見直しにより、営業収支比率は低下しました。			
経常収支比率（％） (経常収益/経常費用) ×100	113.8	106.6	115.0	△
	100%は上回っており、健全な経営状態を維持できているといえます。			
累積欠損金比率（％） [累積欠損金/（営業収益－受託工事収益）] ×100	0.0	0.0	0.0	◎
	欠損金の累積はなく、今後も 0%を目指します。			
下水使用料に対する企業債償還元金の割合（％） (企業債償還元金/下水道使用料) ×100	113.5	84.8	110.0	◎
	企業債の償還は順調に進んでおり、目標値よりも債務の負担が軽減されたといえます。			
経費回収率（％） (下水道使用料/汚水処理費) ×100	117.0	109.4	120.0	△
	目標値には届いていないものの 100%は上回っており、維持管理費などの経費を下水道使用料で適切に回収しています。			
管路調査延長（km）	47.3	75.4	70.0	◎
	目標値を達成しています。			

取組方針：暮らしをまもる下水道				
項目名	策定当時 2009 年度 (平成 21 年度)	現況値 2017 年度 (平成 29 年度)	目標値 2018 年度 (平成 30 年度)	評価
水洗化率（％） (水洗化人口/処理区域内人口) ×100	99.4	99.5	99.7	△
	策定当時よりも上昇しており、今後も引き続き水洗化率の向上に努めます。			
合流式下水道改善率（％） (汚濁負荷量削減) 汚濁負荷量の削減に係る施策の進捗度	92.0	100.0	100.0	◎
	合流式下水道改善事業は 2010（平成 22）年度に完了しています。			
耐震診断率（％） (浄化センター・ポンプ場) (耐震診断済数/耐震診断総数) ×100	21.4	92.9	100.0	○
	計画通りに浄化センターやポンプ場の耐震診断を進めています。			
雨水管路整備率（％） (雨水整備面積/市街化区域面積) ×100	56.4	57.2	57.0	◎
	管路整備率は向上しています。			

取組方針：環境に配慮した下水道

項目名	策定当時 2009年度 (平成21年度)	現況値 2017年度 (平成29年度)	目標値 2018年度 (平成30年度)	評価
下水汚泥リサイクル率（％） (有効利用汚泥量/発生汚泥量) × 100	100.0	100.0	100.0	◎
	浄化センターから発生した汚泥は100%リサイクルしており、今後も継続します。			
消化ガス有効利用率（％） (消化ガスコージェネレーション使用量/消化ガス発生量) × 100	53.3	43.6	60.0	△
	発生量の変動により増減していますが、今後も発生したガスの有効利用率の向上を目指します。			
余剰ガス燃焼率（％） (有効利用されないガス量/消化ガス発生量) × 100	1.9	0.5	0.0	△
	現状では減少傾向ですが、引き続き発生ガスの有効利用に努めます。			

取組方針：ともに進める下水道

項目名	策定当時 2009年度 (平成21年度)	現況値 2017年度 (平成29年度)	目標値 2018年度 (平成30年度)	評価
生活環境に対するお客さま満足度（％） (まちづくり市民アンケートでの結果から)	90.7	92.8	93.0	△
	衛生的で安全な生活環境が確保されていると感じている市民の割合は年々増加していますので、目標値に到達できるよう事業を推進します。			
年間処理場見学回数（回）	10	6	25	△
	見学回数は、減少傾向ですが、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方々が来られています。目標値到達に向けて引き続き下水道の啓発活動を進めていきます。			

【前ビジョンの評価のまとめ（下水道）】

経営状態は、下水道使用料収入が減少傾向にあり、目標値に到達しない項目もありましたが、概ね健全な状態を維持してきました。また、合流式下水道の改善や水洗化率の向上により公衆衛生の向上を実現し、雨水管の整備や浄化センター・ポンプ場施設の耐震診断を行い災害対策を進めました。

下水汚泥のリサイクル率は目標値に到達しましたが、消化ガスは発生量の変動するため、有効利用率が増減しています。引き続き発生したガスの有効利用に努めていきます。

衛生的で安全な生活環境が確保されていると感じている市民の割合は増加していますので、引き続き目標値到達に向けて下水道に関する理解を得られるよう啓発活動を進めていく必要があります。

4 市民アンケート調査結果

上下水道ビジョン策定に係る市民アンケート調査結果についてです。

● 水道料金について

江別市の水道料金（2017年（平成29年）9月現在）は道内35市中低い方から12番目です。この金額についてあなたはどのように考えますか？次のデータを参考にしてください。

《参考データ》

水道料金（17㎡使用の場合）	江別市 2,932 円	道内各市の平均 3,424 円
水道債(借金)残高(市民一人当たり)	江別市 24,449 円	道内各市平均 100,402 円【平成27年度末】
営業収益(水道料金等)(職員一人当たり)	江別市 61,600 千円	道内同規模市平均 58,105 千円【平成27年度末】

水道料金について最も多かったのは、「①経営効率化を一層進め、現在の金額を極力維持してほしい（58.5%）」です。

ほかには、「②多少上げても、より安全でおいしい水道水を安定的に供給してほしい（15.8%）」、「③現在のサービス水準を見直して引き下げてほしい（12.2%）」と続きます。

前回調査と同様に、現在の料金水準を維持すべきという意見が最も多く、「②多少上げても、より安全でおいしい水道水を安定的に供給してほしい」と「③現在のサービス水準を見直して引き下げてほしい」の比率がわずかに逆転しています。

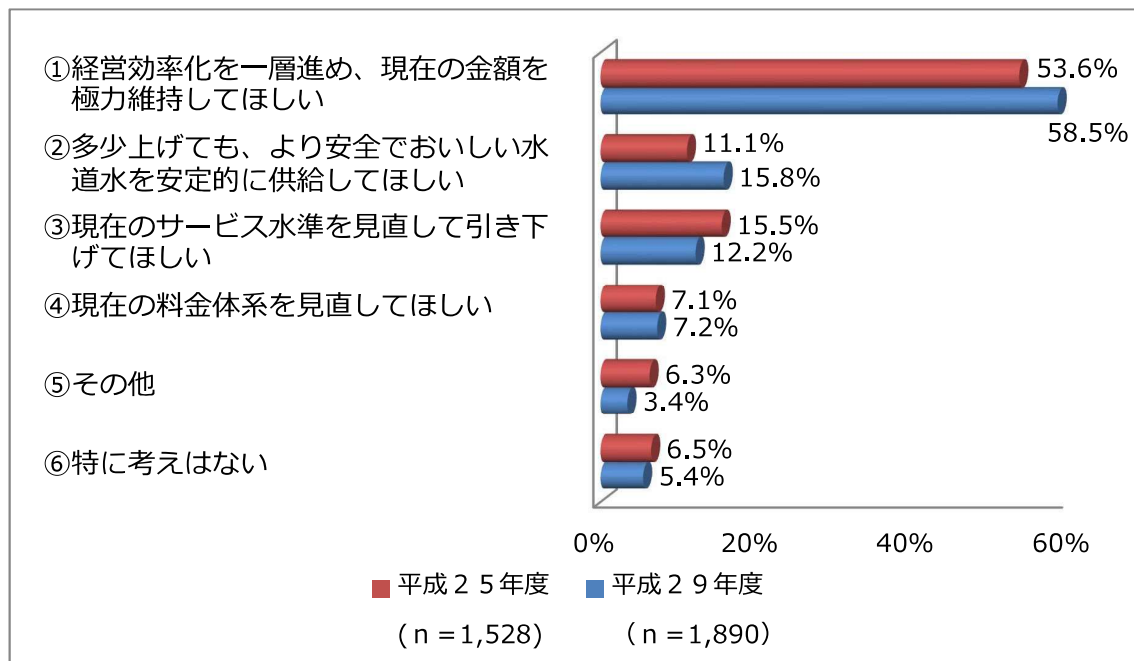


図 10-1 水道料金について【単数回答】

● これからの水道事業に期待することについて

水道事業は、水源の水を浄化(きれいに)し、配水池やポンプ場から配水管を通して市内全域に水道水を供給しています。これからの水道事業について、あなたが期待することは何ですか？
(複数回答可)

これからの水道事業に期待することについて最も多かったのは、「①安心して飲める水道水の供給（83.1%）」です。

他には、「②災害にも強い水道施設の建設（56.1%）」、「③安定して供給できる水源の確保（47.0%）」と続いています。

前回調査時よりも、「②災害にも強い水道施設の建設」が 12.9 ポイント上昇しており、断水災害を契機に、災害に対する意識が高まっていることがうかがえます。

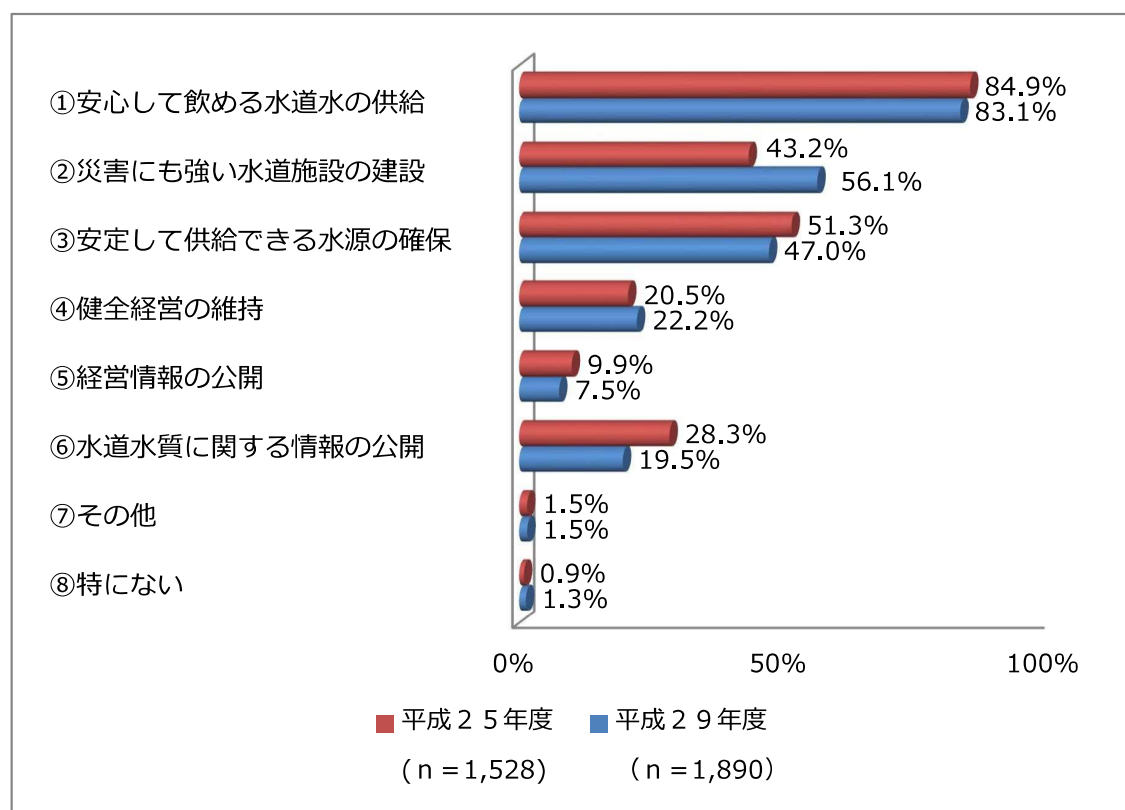


図 10-2 これからの水道事業に期待することについて【複数回答】

● 下水道使用料について

江別市の下水道使用料(2017年(平成29年)9月現在)は道内35市中低い方から3番目です。この金額についてあなたはどのように考えますか？次のデータを参考にしてください。

《参考データ》

下水道料金(17㎡使用の場合)	江別市 1,944 円	道内各市の平均 3,053 円
下水道債(借金)残高(市民一人当たり)	江別市 110,381 円	道内各市平均 180,156 円【平成27年度末】
営業収益(下水道使用料等)(職員一人当たり)	江別市 132,488 千円	道内同規模市平均 151,021 千円【平成27年度末】

下水道使用料については最も多かったのは、「①経営効率化を一層進め、現在の金額を極力維持してほしい(65.9%)」です。

ほかには、「②多少上げても、災害に強い下水道施設整備を進めてほしい(15.0%)」、「③現在のサービス水準を見直して引き下げてほしい(9.9%)」と続いています。

前回の調査と同様に、現在の料金水準を維持すべきという意見が最も多く、「②多少上げても、災害に強い下水道施設整備を進めてほしい」と「③現在のサービス水準を見直して引き下げてほしい」の比率がわずかに逆転しています。

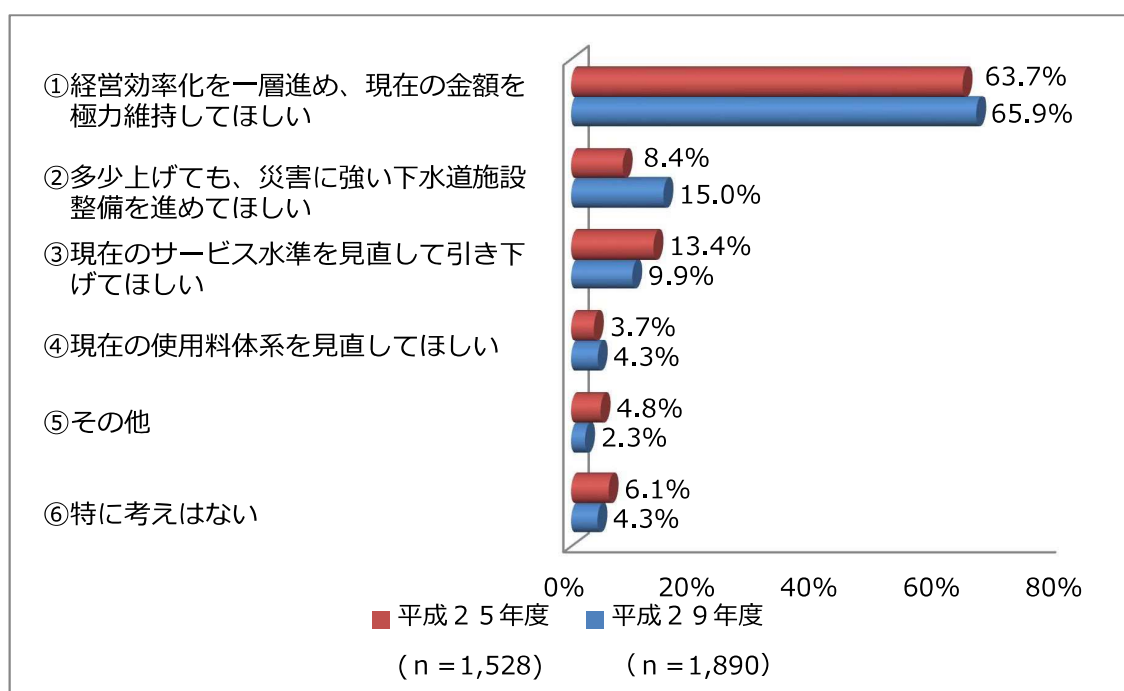


図 10-3 下水道使用料について【単数回答】

● これからの下水道事業に期待することについて

下水道事業は、汚水を浄化センターで処理して河川に放流したり、雨水を雨水管で河川に排除したりしています。これからの下水道事業について、あなたが期待することは何ですか？
(複数回答可)

これからの下水道事業に期待することについて最も多かったのは、「②災害にも強い下水道施設の建設（64.6%）」です。

他には、「③汚水処理による河川水質改善など環境への配慮（52.2%）」、「①降雨時における低地の浸水対策（38.5%）」と続いています。

前回調査時よりも、「②災害にも強い下水道施設の建設」という回答の割合が9.1ポイント上昇しており、将来を見通した災害対策に期待が高まってきていることがうかがえます。

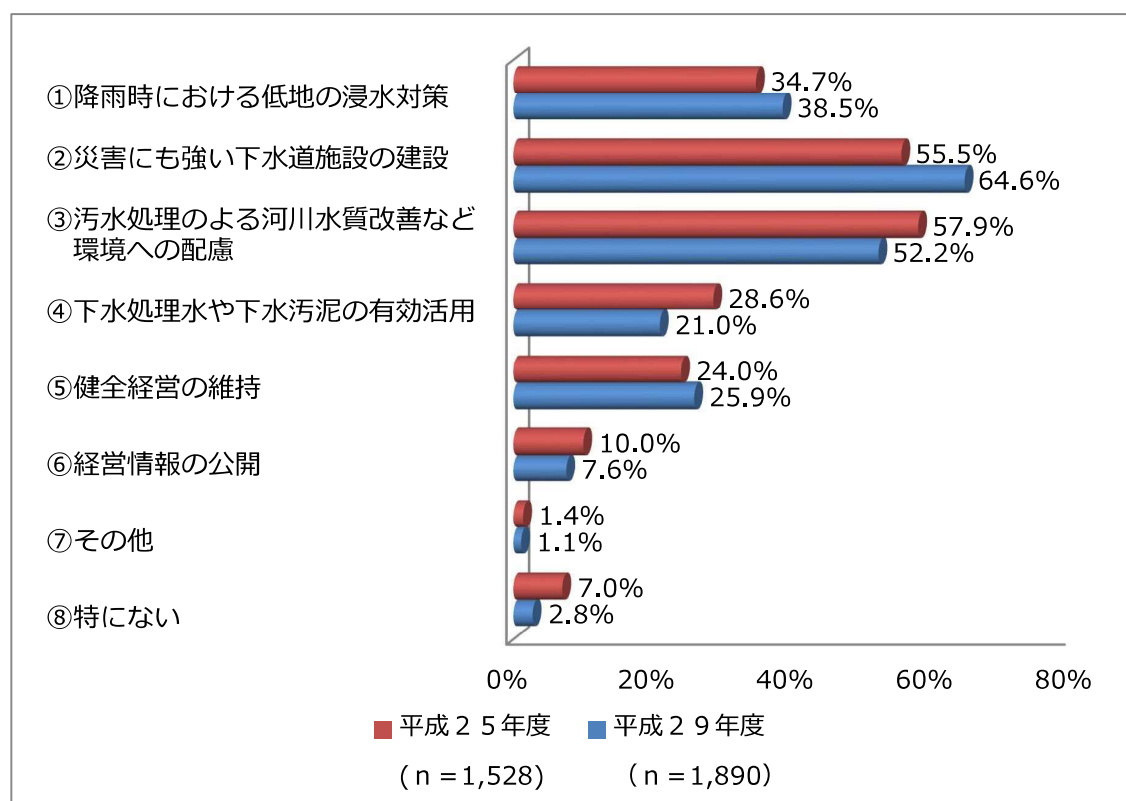


図 10-4 これからの下水道事業に期待することについて【複数回答】

5 持続可能な開発目標SDGsの詳細

「持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals」という意味で、世界中で起こっている環境問題、差別・貧困・人権に関する問題などを、2030（令和12）年までに解決していくことを目指しています。2015（平成27）年の国連サミットにおいて、加盟国の全会一致で採択されました。

	目標1【貧困】 あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる		目標2【飢餓】 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する
	目標3【保健】 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		目標4【教育】 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
	目標5【ジェンダー】 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う		目標6【水・衛生】 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
	目標7【エネルギー】 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する		目標8【経済成長と雇用】 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
	目標9【インフラ、産業化、イノベーション】 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		目標10【不平等】 国内及び各国家間の不平等を是正する
	目標11【持続可能な都市】 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する		目標12【持続可能な消費と生産】 持続可能な消費生産形態を確保する
	目標13【気候変動】 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる		目標14【海洋資源】 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	目標15【陸上資源】 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する		目標16【平和】 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
	目標17【実施手段】 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する		

出典：外務省ホームページ

6 策定経過

<水道事業>

- 2004（平成 16）年 厚生労働省が水道ビジョンを公表
- 2005（平成 17）年 各水道事業者に対し地域水道ビジョンの策定が推奨される
- 2009（平成 21）年 江別市水道ビジョン策定（平成 21 年度～30 年度）
- 2013（平成 25）年 厚生労働省が新水道ビジョンを策定

<下水道事業>

- 2005（平成 17）年 国土交通省が下水道ビジョン 2100 を策定
- 2007（平成 19）年 国土交通省が下水道中期ビジョンを策定
- 2009（平成 21）年 北海道地方下水道ビジョン策定(北海道開発局・北海道・札幌市)
- 2011（平成 23）年 江別市下水道ビジョンを策定（平成 22 年度～30 年度）
- 2014（平成 26）年 国土交通省が新下水道ビジョンを策定
- 2017（平成 29）年 国土交通省が新下水道ビジョン加速戦略を策定

○ビジョン策定に向けた動き

- 2016（平成 28）年 11 月 江別市上下水道ビジョン策定ワーキンググループ（WG）を立ち上げる。

WG メンバーは各課から選出した下記の 8 名で構成。

- 総 務 課 : 財務係長
- 水 道 整 備 課 : 主幹（事業計画担当）、計画係長
- 下水道施設課 : 課長、主幹（総合調整担当）、計画係長
- 浄化センター : 操作係長
- 浄 水 場 : 浄水係長

○活動内容

- 2016（平成 28）年 11 月（WG 第 1 回） : 策定スケジュールについて
- 2016（平成 28）年 12 月（WG 第 2 回） : 策定方針、掲載項目について
- 2016（平成 28）年 12 月（WG 第 3 回） : 章の構成、参考資料について
- 2016（平成 28）年 12 月（WG 第 4 回） : 施設更新計画、耐用年数の考え方について
- 2017（平成 29）年 1 月（WG 第 5 回） : 地震対策、老朽化更新、アセットマネジメントについて
- 2017（平成 29）年 3 月（WG 第 6 回） : 水道事業将来予測の評価について
- 2017（平成 29）年 4 月（WG 第 7 回） : 2017（平成 29）年度のスケジュール確認
- 2017（平成 29）年 5 月（部 内 協 議） : 策定全体スケジュールについて協議
- 2017（平成 29）年 7 月（WG 第 8 回） : 編集作業の再確認
- 2017（平成 29）年 7 月（WG 第 9 回） : 章立て構成の見直し
- 2017（平成 29）年 8 月（職員勉強会） : 公営企業会計の基礎及び今後の収支見通し報告と意見交換
- 2017（平成 29）年 9 月（WG 第 10 回） : 全体構成の確認
- 2017（平成 29）年 11 月（部 内 協 議） : 作業工程、上下水道ビジョンと経営戦略の概要について協議
- 2017（平成 29）年 11 月（職員勉強会） : 構成と策定状況の報告と意見交換

2017（平成29）年	12月	（市長説明）	：上下水道ビジョンと今後の経営見通しについて
2017（平成29）年	12月	（WG第11回）	：進捗状況の確認
2017（平成29）年	12月	（WG第12回）	：素案内容の調整
2018（平成30）年	1月	（部内協議）	：上下水道ビジョン素案について協議
2018（平成30）年	3月	（WG第13回）	：各委員会等の意見を踏まえた内容調整
2018（平成30）年	3月	（職員勉強会）	：上下水道ビジョン素案の説明と意見交換
2018（平成30）年	4月	（WG第14回）	：各担当の進捗確認と修正作業
2018（平成30）年	5月	（WG第15回）	：各担当の修正内容確認と調整
2018（平成30）年	5月	（WG第16回）	：各担当の修正内容確認と調整
2018（平成30）年	6月	（WG第17回）	：2017（平成29）年度決算を踏まえた修正作業
2018（平成30）年	6月	（WG第18回）	：2017（平成29）年度決算を踏まえた修正作業
2018（平成30）年	6月	（WG第19回）	：2017（平成29）年度決算を踏まえた修正作業
2018（平成30）年	7月	（部内協議）	：上下水道ビジョン案について協議 （投資・財政計画の見直し）
2020（令和2）年	1月	（部内協議）	：投資・財政計画について協議
2020（令和2）年	2月	（部内協議）	：投資・財政計画について協議 （中間見直し版）
2022（令和4）年	1月	（WG第20回）	：ビジョン中間見直しスケジュールについて
2022（令和4）年	3月	（部内協議）	：中間見直し概要・スケジュールについて協議
2022（令和4）年	5月	（WG第21回）	：2021（令和3）年度決算データ反映
2022（令和4）年	8月	（部内協議）	：中間見直し方針・内容について協議
2022（令和4）年	9月	（WG第22回）	：中間見直し版素案（文言のみ）完成
2022（令和4）年	11月	（部内協議）	：中間見直し作業状況報告
2023（令和5）年	6月	（WG第23回）	：2022（令和4）年度決算を踏まえた修正作業
2023（令和5）年	7月	（部内協議）	：投資・財政計画について協議

○議会への報告・その他

2017（平成29）年	5月31日	：経済建設常任委員会（策定スケジュールの説明）
2017（平成29）年	8月2日	：江別市上下水道事業運営検討委員会（策定経過、スケジュール説明）
2017（平成29）年	10月1日	：市民アンケートの実施（ビジョン意識調査）
2018（平成30）年	1月26日	：江別市上下水道事業運営検討委員会（素案概要説明）
2018（平成30）年	2月14日	：経済建設常任委員会（素案概要説明）
2018（平成30）年	8月3日	：江別市上下水道事業運営検討委員会（ビジョン（案）説明）
2018（平成30）年	8月27日	：経済建設常任委員会（ビジョン（案）説明）

- 2018（平成30）年 9月 5日～
10月 4日：パブリックコメントの実施
- 2018（平成30）年 11月13日：江別市上下水道事業運営検討委員会（パブリックコメント実施結果報告）
- 2018（平成30）年 11月16日：経済建設常任委員会（パブリックコメント実施結果報告）
- 2019（平成31）年 2月12日：江別市上下水道事業運営検討委員会（策定報告）
- 2019（平成31）年 2月13日：経済建設常任委員会（策定報告）
（投資・財政計画の見直し）
- 2020（令和2）年 2月12日：江別市上下水道事業運営検討委員会（改定報告）
- 2020（令和2）年 2月14日：経済建設常任委員会（改定報告）
（中間見直し版）
- 2023（令和5）年 2月13日：経済建設常任委員会（策定概要・スケジュールの説明）
- 2023（令和5）年 2月27日：江別市上下水道事業運営検討委員会（策定概要・スケジュールの説明）
- 2023（令和5）年 8月 7日：江別市上下水道事業運営検討委員会（中間見直し案説明）
- 2023（令和5）年 8月25日：経済建設常任委員会（中間見直し案説明）
- 2023（令和5）年 9月 6日～
10月 5日：パブリックコメントの実施
- 2023（令和5）年 11月 2日：江別市上下水道事業運営検討委員会（パブリックコメント実施結果及び策定報告）
- 2023（令和5）年 11月 2日：経済建設常任委員会（パブリックコメント実施結果及び策定報告）

（関連する計画等）

- 新水道ビジョン〔厚生労働省〕《2013（平成25）年3月》
- 新下水道ビジョン〔国土交通省〕《2014（平成26）年7月》
- えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）〔江別市〕
《2023（令和5）年》
- 経営戦略策定ガイドライン改訂版について〔総務省〕《2017（平成29）年3月》
- 新下水道ビジョン加速戦略〔国土交通省〕《2017（平成29）年8月》